

○計画期間:令和元年12月～令和7年3月(5年4月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点（令和5年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国から「松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、平成25年3月に「2期松江市中心市街地活性化基本計画」、令和元年12月に「3期松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた。

3期計画においては、“既存ストックの活用などによる活気の創出”、“水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり”、“歴史・文化資源を生かした観光振興・交流の拡大”の3つの基本方針のもと、官民が連携して事業を展開し、中心市街地活性化に取り組んでいる。

松江市の中心市街地活性化を目的に、令和4年10月に民間まちづくり会社「株式会社まつくる」が設立した。中心市街地活性化のためのエリアビジョンを策定し、空き家や空き店舗の利活用、起業支援のための相談窓口など松江のまちづくりを横断的に進め、街の活性化や観光地としての賑わい創出に繋がる事業を展開していく。

エリア・リノベーションを推進するため「水の都松江のまちのRe-project」に取り組み、令和4年度は「まちのRe-project プロモーション動画」を制作。前年度策定したガイドラインや動画を使用してのリノベーションまちづくりの啓発を行い、既存ストックを活かした新たなまちづくりが中心市街地に広がっていくことが期待される。

令和4年度は市内3つの宿泊集積地において、観光庁の「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」を活用した宿泊施設・観光施設の高付加価値化改修や廃屋の撤去に取り組んだ。中心市街地においては、8施設の高付加価値化改修、2施設の廃屋撤去が実施され、観光地としての魅力向上を図り、アフターコロナの地域経済回復に向けたスタートが切られた。

新型コロナウイルスの水際対策の緩和が寄与し、イベントの開催数や水辺の公共空間の活用日数、また中心市街地の通行量などは軒並み増加している。今後も感染状況を注視しながら、中心市街地の活性化に向けて官民が一体となって取り組み、事業効果を最大限に高めることで活気の創出、中心市街地の活性化を目指す。また、令和4年度に松江市が実施したイベントに対する経費を補助する「にぎわい創出支援事業補助金」では29件の申請があり、街のにぎわいイベントが各所で行われた。

一方で、中心市街地の人口は依然として減少しており、商店街における営業店舗数も近年減少傾向にあるため、まちの活気が失われないよう各種事業を着実に実施していくことが重要である。

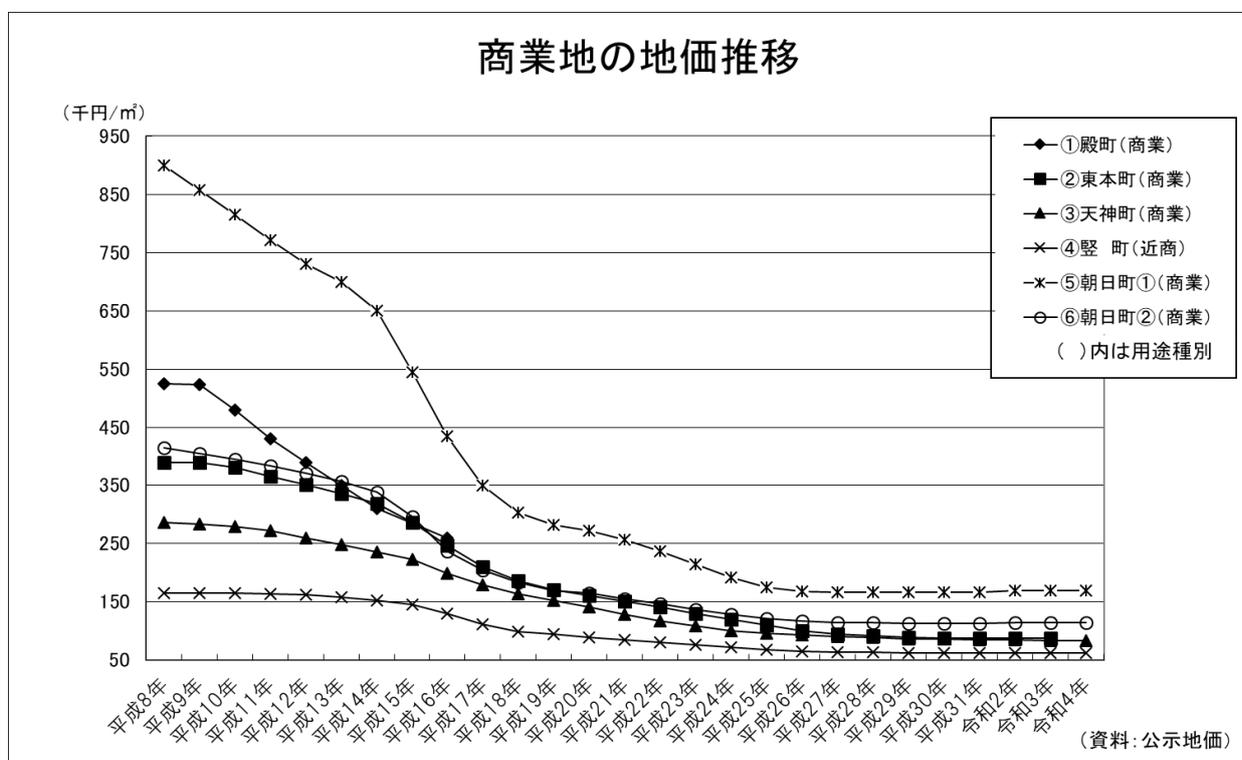
【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(1) 居住人口

(中心市街地 区域)	平成30年 度(計画前 年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
人口	7,548人	7,411人	7,253人	7,161人	7,144人		
人口増減数	-100人	-137人	-159人	-92人	-16人		
自然増減数	-83人	-89人	-69人	-98人	-93人		
社会増減数	-17人	-49人	-89人	6人	76人		
転入者数	291人	297人	241人	277人	324人		

(2) 地価



2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

基本方針1「既存ストックの活用による活気の創出」は、遊休不動産の事業化累計数が目標53件に対して45件となり、令和5年度中の目標達成が現実味を帯びてきた。コロナ禍における新規出店を後押ししたのは、空き家・空き店舗の改修工事などに活用できるチャレンジジョブ補助金の存在が大きい。この効果を持続できるようにフォローアップにも取り組まれない。一方、水の都松江のまちの Re-project は、遊休不動産マッチングイベント「たてもものぐるり」を通じて、活用希望者の発掘につながっているが、事業化件数に結び付いていない。第3期基本計画中の事業化に向けて、官民の協力体制を整備されたい。

基本方針2「水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり」は、水辺の公共空間の活用日数が目標 948 日に対して R4 年度末で 1,193 日となり目標を達成した。大橋川周辺まちづくり事業の一環で 8 月に行った「大橋川縁日」や 9 月から 11 月にかけて白潟公園で行った「水辺のマーケット」など新たな取組みを生み出す環境が整いつつあると思われる。今後もミズベリング松江協議会を中心に官民連携の賑わいづくりを継続されたい。補完指標の水辺の公共空間の来訪者数は、目標 497 千人に対して令和 4 年度は 413 千人と回復傾向にある。しかし、水郷祭の開催有無によって実績値が大幅に変動しており、1 イベントへの依存度が高い状況にある。今後は、令和 6 年度の目標達成に向けて、水郷祭の実施に加えて、年間を通じた来訪者数増加につながる効果的な取組みを継続されたい。

基本方針3「歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大」は、コロナ禍で大幅に目標値を下回る結果となっている。令和 4 年度に大規模整備を行い、国内外の宿泊受入体制が整ったことは目標達成に向けて好材料である。今後は、インバウンドで日本を訪れる外国人が松江を目的地として選んでもらえるように、歴史・文化・景観など松江の魅力を世界に発信されたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
既存ストックの活用などによる活気の創出	遊休不動産の事業化件数	30件 (H26~30年度累計)	53件 (R元年12月~7年3月累計)	45件 (R元年12月~5年3月累計)	B	①	①
	(※補完指標) 歩行者・自転車通行量 (平日・休日)	20,060人 (H30年度)	23,066人 (R6年度)	21,795人 (R4年度)	B	①	①
水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり	水辺の公共空間の活用日数	548日 (H26~30年度累計)	948日 (R元年12月~7年3月累計)	1,195日 (R元年12月~5年3月累計)	A	①	①
	(※補完指標) 水辺の公共空間の来訪者数	431千人 (H30年度)	497千人 (R6年度)	413千人 (R4年度)	C	①	①
歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大	中心市街地内の外国人宿泊客数	43千人 (H30年)	65千人 (R6年)	3千人 (R4年)	C	2	2
	中心市街地内の宿泊客数	1,269千人 (H30年)	1,374千人 (R6年)	940千人 (R4年)	C	2	2

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「遊休不動産の事業化件数」については、令和2年度にチャレンジショップ事業の対象エリア拡大等を実施したことや、徐々に新型コロナウイルス感染症の影響からの脱却が図られたことから、令和4年度は19件の活用があり、創業、企業にチャレンジした事業者が大幅に増加した。

「水の都松江のまちのRe-project」事業のさらなる進展とチャレンジショップ支援事業の推進により、目標達成は可能であると考えている。

「歩行者・自転車通行量（平日・休日）」については、前年から9,104人増の21,795人となり前年度に比べると大幅に増加した。新型コロナウイルスの水際対策の緩和等も影響し旅行者が増えたことや市民の外出意識が戻ってきたことが大きく寄与したと考えられる。今後も、主要事業の効果発現によりまちなかの回遊性が向上し、通行量が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の活用日数」については、令和4年は前年から90日増加し、456日であった。各種イベントが再開したことが大きく寄与し活用日数の増加につながったものと考えられる。すでに目標は達成しているが、今後も「大橋川周辺まちづくり事業」等の進展により水辺空間の利活用が更に増加することが見込まれる。

「水辺の公共空間の来訪者数」については、令和3年から408千人増加の413千人となった。一番の要因は、令和2年度、令和3年度と実施されなかった西日本最大級の花火大会「松江水郷祭」が開催されたことにより、水郷祭だけで400千人の来訪者数の増加となった。その他、小規模イベントも数多く実施されたため前年度大幅な増加となった。今後は、水郷祭の規模拡大（計画）と新型コロナウイルスの影響で開催を見送りしていたイベントの開催で目標達成が見込める。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和3年から2,303人増の3,305人となった。新型コロナウイルスの水際対策の緩和により増加したものと考えられ、松江水郷祭等のイベント開催も徐々に増えつつあることも要因である。今後もインバウンド需要の増加などにより景気回復に相応の追い風になることが予想される。次年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響は少なからずあるものの、水燈路や怪喜宴など宿泊を促す夜のイベントを再度実施することで外国人宿泊客数は増加していくものと思われるが、急激な増加を見込むことは難しい。

「中心市街地内の宿泊客数」については前年度より266千人増加となる940千人となった。水郷祭の開催や観光需要喚起策の「全国旅行支援」の実施も寄与し宿泊客数の増加になったと考えられるが、新型コロナウイルス感染症の影響が今後も少なからず残ると思われるため、急激な増加を見込むことは難しい。

今後も新型コロナウイルスの収束を見据えてハード面など受入れ環境整備を引き続き進めていき、将来的な目標達成に向けて取り組んでいく。

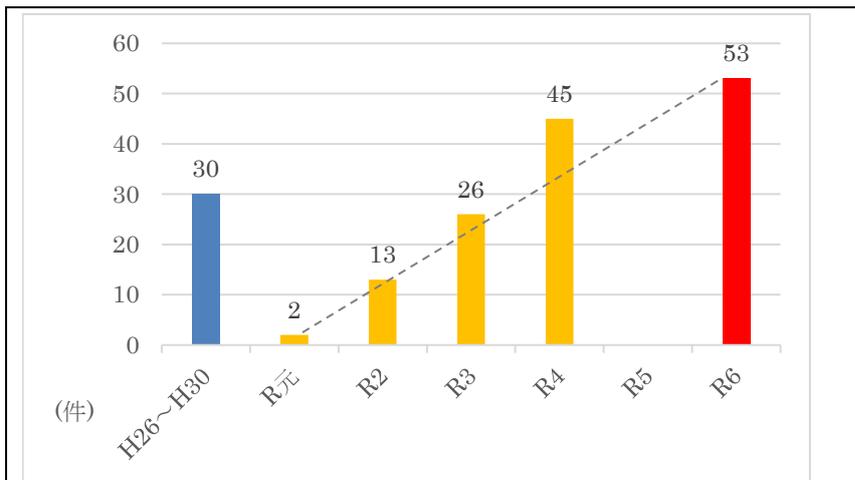
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「遊休不動産の事業化件数」 ※目標設定の考え方は基本計画 P57～P59 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H30	30 (基準年値) (H26~30 累計)
R元	2 (年間 2)
R2	13 (年間 11)
R3	26 (年間 13)
R4	45 (年間 19)
R5	
R6	53 (目標値) (R元. 12~7.3 累計)

※調査方法：主要事業における事業化件数

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地の遊休不動産

〈分析内容〉

遊休不動産の事業化件数に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

後述するチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことが大きく寄与した結果、事業化件数が19件となり、期待された効果が発現している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】15件（累計） 【最新値】0件（累計） 遊休不動産マッチングイベント「たてもものぐるり」の開催を通して、活用希望者の発掘につなげている。またリノベーションまちづくりの普及啓発活動としてプロモーション動画作成やSNSでの情報発信を行ったが事業化件数には結びつかなかった。
事業の今後につ	地方創生推進交付金事業としては令和3年度で完了したが、令和4

いて	年度も引き続き「水の都松江のまちの Re-project」を実施した。これまでの「リノベーションスクール」で発掘した人材への支援を継続すると共に、令和3年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」や SNS を活用し、リノベーションまちづくりの普及啓発を行い、遊休不動産の実事業化促進を図る。
----	--

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年6月にオープン。民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6件（累計） 【最新値】1件（累計） 令和3年度と比較すると施設活用実績はほぼ横ばい推移だが、新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたためイベント利用は増加した。チャレンジカフェについては、区域外ではあるが利用者から1件の起業及び空き家・空き店舗を活用した出店へと繋げることが出来ている。
事業の今後について	HP、Instagram、フェイスブックを主とした情報発信や、施設活用者の口コミにより徐々に周知されてきている。特にチャレンジカフェについては年間1/3程度の利用実績があり、今後もチャレンジショップ支援事業と連携して、起業及び空き家・空き店舗を活用した出店へつなげていくことが期待できる。

③. チャレンジショップ支援事業（島根県、松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】19件 令和2年度よりチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことにより令和3年の事業化件数11件に対し、令和4年度は事業化件数が19件となり、前年に比べ大幅に増加した。期待された効果が発現している。

事業の今後について	新型コロナウイルスの収束に向けて、今後も既存ストックの活用は増加するものと思われる。補助対象と補助金額を拡充することでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。
-----------	--

④. 伊勢宮界限元気プロジェクト（松江新大橋商店街振興組合、株式会社伊勢宮界限元気プロジェクト）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街やまちづくり会社による空き店舗への出店誘致や地域資源を活かしたソフト事業等の実施により、魅力的なまちづくりを推進し、誘客の促進と地域コミュニティの再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】0 件 平成 24 年度にテナントミックス事業として整備した 6 件のテナントは令和 3 年度に引き続き空きテナントなく推移している。近年ではドローンを活用した PR 動画などを制作しており、幅広い活動を展開している。
事業の今後について	今後は、空き店舗問い合わせ窓口と周辺商店街、チャレンジショップ支援事業との連携を図り、ドローンの有効活用も加え更なる事業化を図る。

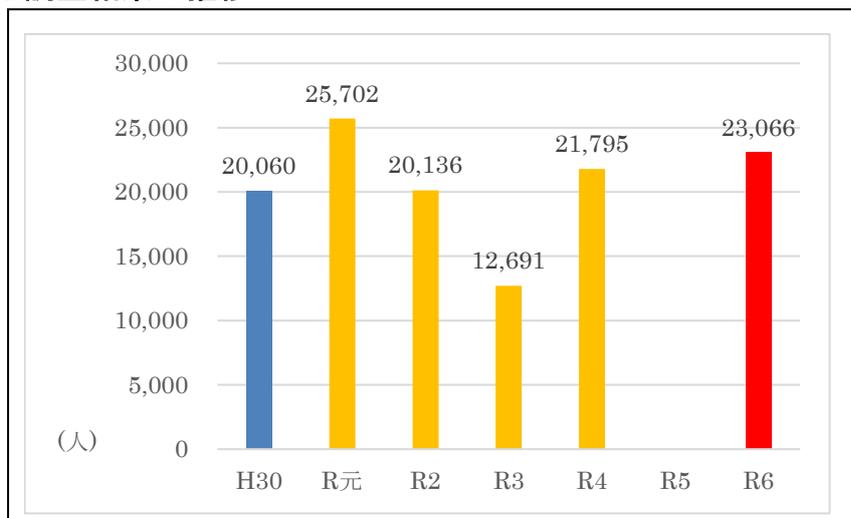
●目標達成の見通し及び今後の対策

「遊休不動産の事業化件数」については、主要事業は概ね順調に進捗している。「チャレンジショップ支援事業」については、令和 2 年度から補助の対象となる中心市街地商店街の要件を基本計画で設定された区域内に拡大し、面的な活性化を図っている。併せて空き店舗等の遊休不動産の活用を推進する。

また、「水の都松江のまちの Re-project」については、これまでの「リノベーションスクール」で発掘した人材への支援を継続すると共に、令和 3 年度に策定した「松江市リノベーションまちづくりガイドライン」や SNS を活用し、リノベーションまちづくりの普及啓発を行うことで、チャレンジしやすい環境づくりと遊休不動産オーナーの理解促進を図り、引き続きの遊休不動産実事業化を進め、まちなかの再生と市域全体の活性化を目指す。

(2)「歩行者・自転車通行量(平日・休日)」※目標設定の考え方は基本計画 P59～P62 参照

●調査結果の推移



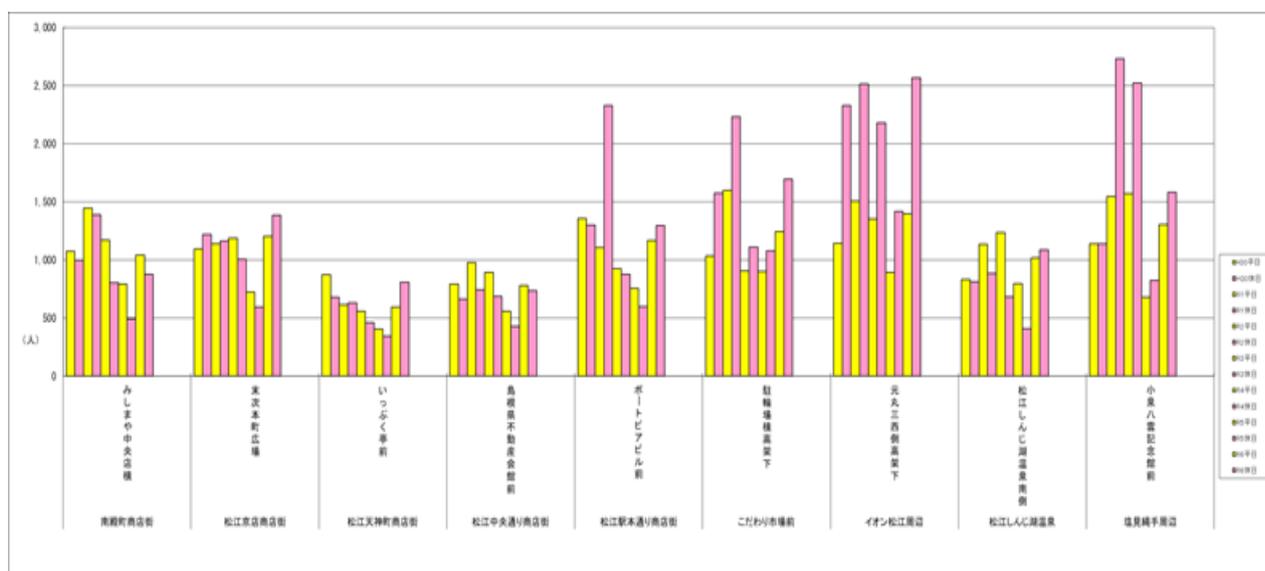
年	(人)
H30	20,060 (基準年値)
R元	25,702
R2	20,136
R3	12,691
R4	21,795
R5	
R6	23,066 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者数を毎年10～11月の平日・休日に、市内9地点において11時～18時で計測

※調査月：10～11月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内の9地点（みしまや中央店、末次本町広場、中村茶舗前、島根県不動産会館前、ポートピアビル前、駅前輪場横高架下、元丸三西側高架下、松江しんじ湖温泉南側、小泉八雲記念館前）における歩行者及び自転車の通行量



〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

「チャレンジショップ支援事業」は対象エリアを拡大し、事業化件数19件と好調に推移したことから通行量の増加に大きく寄与したものと考えている。

通行量は新型コロナウイルス感染症の影響による不要不急の外出自粛や移動の制限、旅行マインドの低下が前年度までであったが、令和4年度から行われた新型コロナウイルスの水際対策の緩

和等により旅行者の増加、市民・観光客の外出意識などが戻ってきたため前年度から大幅に増加した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,200人 【最新値】0人 令和4年度は、遊休不動産マッチングイベント「たてもものぐるり」の開催を通して活用希望者の発掘を行ったことで、市街地内の潜在的な魅力が見える化され、不動産オーナーとのマッチングや、民間のまちづくり団体との協調につながる動きも見えているが事業化件数には至らなかった。しかしこのような活動を継続し、新規出店などのコンテンツ創出を推進することで事業化件数に結び付けることで、今後通行量の増加に寄与するものと考えられる。
事業の今後について	地方創生推進交付金事業としては令和3年度で完了したが、令和4年度も引き続き「水の都松江のまちの Re-project」を実施した。これまでの「リノベーションスクール」で発掘した人材への支援を継続すると共に、令和3年度に策定した「松江リノベーションまちづくりガイドライン」やSNSを活用し、リノベーションまちづくりの普及啓発を行い、遊休不動産の実事業化促進を図ることで、今後まちに新たなコンテンツが創出され、通行量の増加につながるものとする。

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】80人 【最新値】40人</p> <p>令和元年6月にオープンし、シェアオフィスやチャレンジカフェ、ゲストハウスを運営している。</p> <p>令和3年度と比較すると利用実績はほぼ横ばい推移だが、新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたためイベント利用は増加した。SUETUGU 利用者による区域内での事業化に至った件数はなかったものの、区域外で1件が事業化に至ったことにより、周辺地区の賑わいや回遊性向上には貢献した。</p>
事業の今後について	<p>HP、インスタグラム、フェイスブックを主とした情報発信や、利用者の口コミにより徐々に周知されてきている。特にチャレンジカフェについては年間日数1/3程度の利用があり、今後は区域内での事業化も期待でき、それに伴い通行量の増加が期待できる。</p>

③. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】100人 【最新値】0人</p> <p>松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和4年度については、外出・旅行マインドは徐々に回復しつつあるが、未だ新型コロナウイルス感染症の影響で効果が発現されていない。今後は観光需要の回帰とともに通行量増加に寄与していくと想定される。</p>
事業の今後について	事業完了

④. チャレンジショップ支援事業（松江市）

事業実施期間	平成9年度～【実施中】
事業概要	中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】設定していない 【最新値】0人</p>

	令和 2 年度よりチャレンジショップ支援事業の対象エリアを拡大し、面的な活性化を図ったことにより令和 3 年の事業化件数 11 件に対し、令和 4 年度は事業化件数が 19 件と大幅に増加した。これにより通行量の増加に寄与したものとする。
事業の今後について	補助対象と補助金額を拡充することでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。

⑤. まちあるき観光推進事業

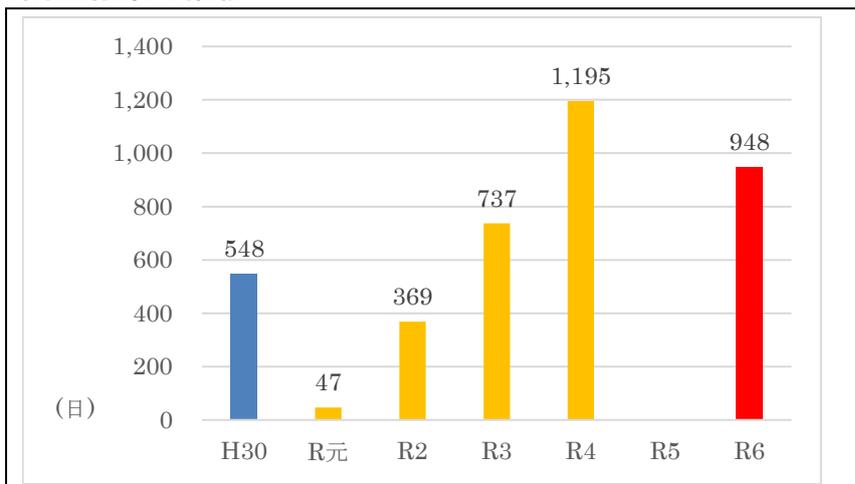
事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	当日受付のまちあるきコースを開設し、観光客の利便性の向上することで観光振興及び地域経済の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定しない 【最新値】2473 人 ゴーストツアーや武者ガイドの利用者数は令和 3 年度が 2470 人、令和 4 年度が 2473 人であり横ばいで推移した。今後は、新型コロナウイルスの水際対策の緩和により増加していくと考えられる。
事業の今後について	さまざまなツールを活用し認知度の向上を図り、観光振興に寄与するとともに、通行量の増加につなげる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「歩行者・自転車通行量（平日・休日）」については、主要事業は概ね順調に進捗している。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けなかった令和元年度実績近くまで回復しつつあり、水の都松江のまちの Re-project やチャレンジショップ支援事業における遊休不動産の活用により最終的に目標達成は可能であるとする。今後も官民連携して各事業に取り組むことで目標を達成していきたい。

(3) 「水辺の公共空間の活用日数」 ※目標設定の考え方は基本計画 P63～P65 参照

●調査結果の推移



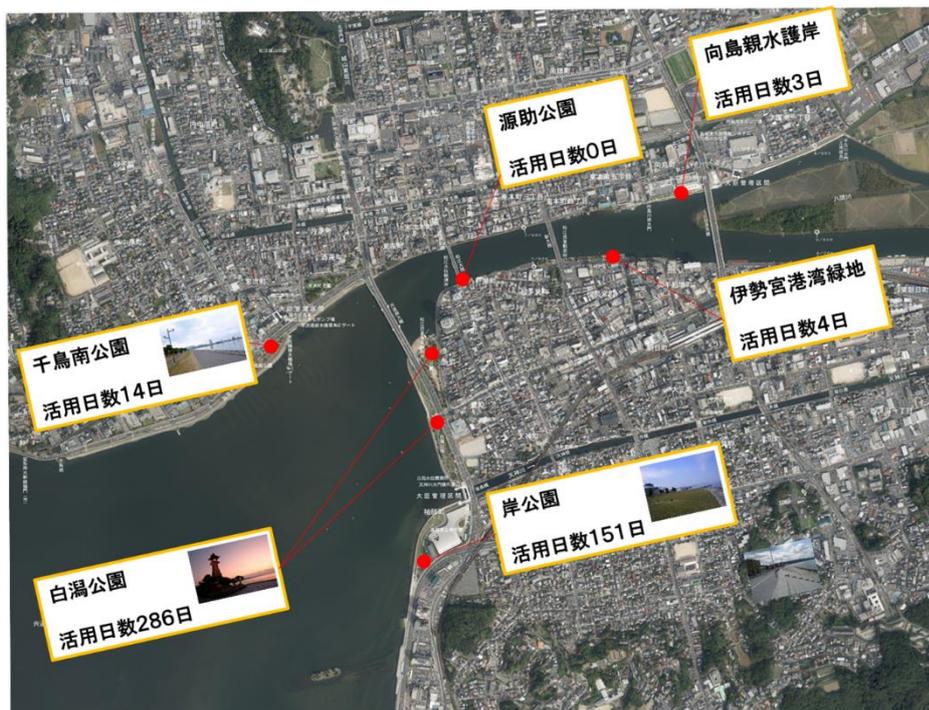
年	(日)
H30	548 (基準年値) (H26～30 累計)
R元	47 (年間 47)
R2	369 (年間 322)
R3	737 (年間 368)
R4	1,195 (年間 458)
R5	
R6	948 (目標値) (R元. 12～7.3 累計)

※調査方法：市、県、国に対する利用申請又は届出等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：松江市、島根県、出雲河川事務所が管理する水辺の公共空間に対して利用に関する申請又は届出等があった日数の累計



〈分析内容〉

水辺の公共空間の活用日数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

新型コロナウイルス感染症の影響も収束に向かう中、3年ぶりに「松江水郷祭」が開催されるなど、各団体などによるイベントなどが多数実施され、活用日数は前年度から大幅に増加し各所で賑わいが生まれた。特に「水辺のマーケット」や「TASOGARE BEER NIGHT」など一定期間継続的に開催するイベントも試験的に実施され、活用日数の増加に寄与した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画や宍道湖・大橋川かわまちづくり計画に基づき、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、中心市街地の水辺の公共空間の利活用を進めることで、魅力的な水辺空間と中心市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】107日 【最新値】135日 令和4年度の主なものとして、8月に向島町親水護岸における「TSKエリ8祭り」、伊勢宮・和多見港湾緑地における水辺利活用社会実験「大橋川縁日」・「松江 YASHIORI 祭り」の賑わいと、大橋川の南北を結ぶ渡船企画を合わせて実施した。7月末から8月末にかけては岸公園において毎週開催されたドリンク（アルコール）提供の「TASOGARE BEER NIGHT」とアクティビティの「宍道湖夜の遊び場プロジェクト」を合同実施した。9月から11月にかけては白潟公園においてマルシェ形式の「水辺のマーケット」を実施した。10月にはミズベリング松江協議会主催で恒例の「ミズベリング縁日」を岸公園において開催することで、目標値を達成し水辺の公共空間の活用日数の増加に貢献した。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和2年度～6年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】22日 【最新値】17日 令和4年度は、市道の歩行空間整備・美装化（工事）、都市計画道路で整備計画のある、白潟本町通りにおける将来の道路形状の検討の社会実験とそれに関わる交通量調査、アンケートに取り組んだ。
事業の今後について	令和5年度は、電線類の地中化工事・歩行空間整備・美装化工事、住宅等修景支援、社会実験を行うこととしている。これらにより、水辺の公共空間の活用につなげていく。

③. 水の都音楽祭（水の都音楽祭市民実行委員会）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】0日 事業完了
事業の今後について	事業完了

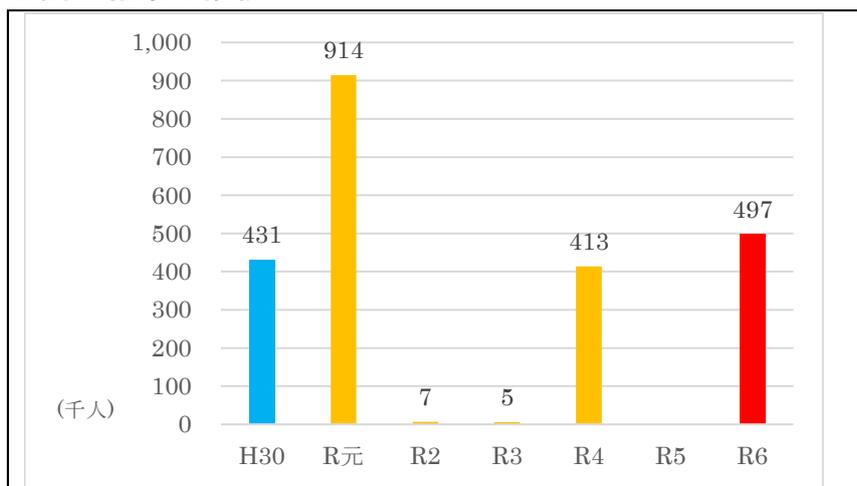
●目標達成の見通し及び今後の対策

「水辺の公共空間の活用日数」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であると考えます。イベント数に比例して水辺の活用日数も増加。今後も更なるイベント数の増加などにより活用日数も増加するものと思われる。

また、事業効果をさらに高めていくために、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、民間事業者と連携した社会実験など、官民連携により取り組むことで目標を達成していきたい。

(4)「水辺の公共空間の来訪者数」※目標設定の考え方は基本計画 P66～P67 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	431 (基準年値)
R元	914
R2	7
R3	5
R4	413
R5	
R6	497 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：水辺の公共空間で開催されたイベントの観客数等

〈分析内容〉

水辺の公共空間の来訪者数の増加に向けた各事業について、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていたイベントなどが復活し、来訪者数が前年比大幅増加した。令和5年度は更にイベント開催が増えるものと思われ、目標値達成は可能であると考えられる。

水辺の公共空間の来訪者数の増加要因は、松江水郷祭が3年ぶりに開催され、400千人が来客したことである。また小規模のイベントも数多く実施され街には新型コロナウイルス感染症の影響前の賑わいが戻りつつある。

目標値には届かなかったものの、更なるイベント実施により目標は達成であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	大橋川周辺まちづくり基本計画や宍道湖・大橋川かわまちづくり計画に基づき、官民で構成するミズベリング松江協議会を中心に、中心市街地の水辺の公共空間の利活用を進めることで、魅力的な水辺空間と中心市街地の回遊性の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】5,000人 【最新値】13,352人 令和4年度の主なものとしては、8月に向島親水護岸における「TSKエリ8祭り」、伊勢宮・和多見港湾緑地における、水辺利活用社会実験「大橋川縁日」・「松江YASHIORI祭り」の賑わいと、大橋川の南北を結ぶ渡船企画を合わせて実施した。7月末から8月末にかけては

	岸公園において毎週開催されたドリンク（アルコール）提供の「TASOGARE BEER NIGHT」とアクティビティの「宍道湖夜の遊び場プロジェクト」を合同実施した。9月から11月にかけては白潟公園においてマルシェ形式の「水辺のマーケット」を実施した。10月にはミズベリング松江協議会主催で恒例の「ミズベリング縁日」を岸公園において開催した。最新値は目標値を上回っている。これまで、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になっていたイベントなどが再開され、水辺に足を運ぶ来訪者が増えたことが要因と考えられる。
事業の今後について	水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいくことで水辺の来訪者数を増加させていく。

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

事業実施期間	令和2年度～6年度【実施中】
事業概要	大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,000人 【最新値】600人 令和4年度は市道の歩行空間整備・美装化（工事）、都市計画道路で整備計画のある、白潟本町通りにおいて、令和3年度に引き続き「安心して歩ける歩行空間の創出」に向け、課題や手法を検証するため社会実験に取り組んだ。
事業の今後について	歩行空間の美装化整備工事、住宅等修景支援、歩道・広場を活用し社会実験を行うことで、周辺の水辺の来訪者数増加につなげる。

③. 水の都音楽祭（松江市）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】60,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

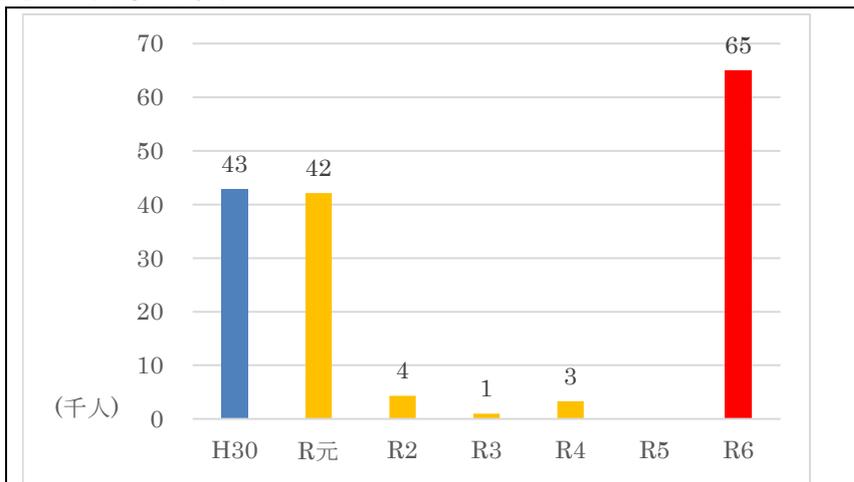
いて

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の影響に左右されることはあるものの、基本的にはウィズコロナが浸透しており次年度以降は増加傾向にあるものと考えます。松江水郷祭についても令和5年度実施予定で既に動いており、順調にいけば令和5年度は目標達成が見込めるものと考えられる。

(5)「中心市街地内の外国人宿泊客数」※目標設定の考え方は基本計画 P68～P70 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	43 (基準年値)
R元	42
R2	4
R3	1
R4	3
R5	
R6	65 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間外国人宿泊客数

〈分析内容〉

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和3年から2千人増の3千人となった。令和4年度途中から大幅な水際対策の緩和が行われたため、前年度から増加したと考えられる。また、令和5年度途中から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴い水際措置を終了する予定もあることから、大幅な増加が期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000人 【最新値】0人

	事業完了
事業の今後について	事業完了

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和4年度については、外出・旅行マインドは回復に向かい今後は外国人宿泊客数の増加に寄与していく。
事業の今後について	事業完了

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】 〔認定基本計画：平成29年度～〕
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】6,000人 【最新値】140人 事業完了
事業の今後について	事業完了

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（民間事業者）

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】2,000人</p> <p>【最新値】2,200人</p> <p>中心市街地において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が終了し、4月に2件オープン。</p> <p>170室の想定に対し、それぞれ客室数は、199室と179室を整備。</p> <p>今後、外国人宿泊数に大きく寄与していくものと考えられる。</p>
事業の今後について	事業完了

⑤. 城下町・水の都魅力発信事業（松江市）

事業実施期間	令和4年度～令和6年度
事業概要	松江市が世界に誇る観光資源「国宝松江城」や「城下町文化」、「水の都」等の魅力を、広く発信していくための取り組み。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和4年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】設定していない</p> <p>【最新値】武者によるお出迎え実績37人</p> <p>松江固有の素材を活用した閑散期誘客対策事業、JRとの連携強化事業、また観光客に向け甲冑姿の武者によるお出迎えを行う観光客おもてなし事業補助金の3つの事業を実施し、松江魅力向上を図った。</p>
事業の今後について	観光戦略プランを強かに推進するため、コンセプトである「Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～」にある「城下町」や「水の都」にスポットを当てた事業を展開し、松江市の魅力を最大限に活用した観光振興を図る。

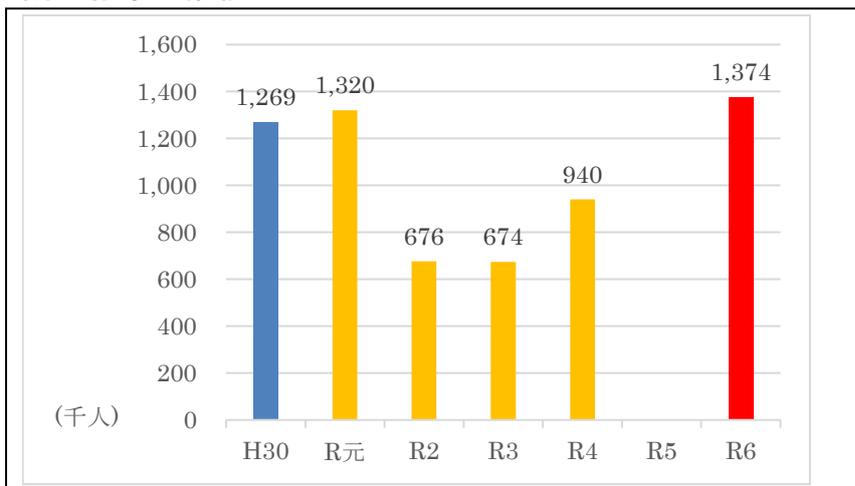
●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、令和4年前半は新型コロナウイルス感染症の影響により伸び悩んだものの、水際対策緩和により後半は増加した。

目標値とは乖離があるものの、主要事業の効果発現により今後は増加していくものと考えられる。またハード面においても多くのインバウンドを受け入れられる体制を構築していく。

(6)「中心市街地内の宿泊客数」※目標設定の考え方は基本計画 P71～P73 参照

●調査結果の推移



年	(千人)
H30	1,269 (基準年値)
R元	1,320
R2	676
R3	674
R4	940
R5	
R6	1,374 (目標値)

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

中心市街地内の宿泊客数については、令和2年、令和3年に比べると増加しており、今後も民間事業者による宿泊施設の整備が完了したこともあり増加することが見込まれる。

また、外国人宿泊客数と同様、令和5年度途中から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴い、その他事業である「松江水燈路」や「松江水郷祭」「国宝松江城マラソン」が実施されることにより宿泊客数の増加が大きく期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【済】
事業概要	地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】8,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

事業実施期間	令和元年度【済】
事業概要	堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2,000人 【最新値】0人 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。令和4年度については、外出・旅行マインドは回復に向かい今後は中心市街地の宿泊客数の増加に寄与していく。
事業の今後について	事業完了

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

事業実施期間	平成28年度～令和2年度【済】 [認定基本計画：平成29年度～]
事業概要	松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】26,000人 【最新値】0人 事業完了
事業の今後について	事業完了

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（松江市）

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】
事業概要	民間宿泊施設の開業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】87,000人 【最新値】96,000人 中心市街地において民間事業者による宿泊施設の大規模整備が終

	了し、4月に2件オープン。170室の想定に対し、それぞれ客室数は、199室と179室を整備。今後宿泊客数に大きく寄与していくものと考えられる。
事業の今後について	事業完了

⑤. 城下町・水の都魅力発信事業（松江市）

事業実施期間	令和4年度～令和6年度
事業概要	松江市が世界に誇る観光資源「国宝松江城」や「城下町文化」、「水の都」等の魅力を、広く発信していくための取り組み。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和4年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】設定していない 【最新値】武者によるお出迎え実績 37件 松江固有の素材を活用した閑散期誘客対策事業、JRとの連携強化事業、また観光客に向け甲冑姿の武者によるお出迎えを行う観光客おもてなし事業補助金の3つの事業を実施し、松江魅力向上を図った。
事業の今後について	観光戦略プランを強かに推進するため、コンセプトである「Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～」にある「城下町」や「水の都」にスポットを当てた事業を展開し、松江市の魅力を最大限に活用した観光振興を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の宿泊客数」については回復傾向にあり令和5年度も増加することが見込まれる。各種事業のPR活動を活発に行い、宿泊客数の増加に繋げたい。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響の収束期を見据えた受入れ環境整備を引き続き進めていき、また、各種事業のPR活動を活発に行うことで、将来的な目標達成に向けて取り組んでいく。